

2019026

プロジェクト名 伊是名集落らしさを残そう

プロジェクトの概要

伊是名集落には、集落の文化的伝統的景観を構成するひとつの要素である珊瑚の石垣が今も残る。かつては、相互扶助（ゆいまーる）で石垣を築造したが、石垣築造の技術者の減少と高齢化により、石垣築造はほとんど行われなくなり、石垣が崩壊したままの箇所も多数ある。そこで、日大生が触媒となり、地域の内部の力を引き出す石積みの実地の活動をマネジメントし、地域の文化的伝統を継承する現代的な相互扶助の仕組みを構築することを目的とする。

プロジェクトの結果・成果

実施前に村民と石積みマニュアルを共有し、パネル等も使用して石積み活動の当日の朝と昼に工程のポイントを参加者で確認した。コミュニケーションをとりながら石積みを行うことで、見えない部分を補い合って石を隙間なく積むことや、全員で石垣全体を水平に積む意識を保つことができた。作業工程が変わるタイミングや休憩のときには、石垣を一步ひいて眺めることで、出来栄や進捗状況がわかり、次の作業への改善に繋がった。二日間で、石積み熟練者と青年会、村民、学生の22人が石積み活動を経験し、「石がぴったりと据わるコツを掴むと楽しい」、「石垣を積むのは難しい」といった感覚的なことや「周りの石垣をみることで、石の積み方を考えた」等の目標とする石垣の積み方を意識することができた。青年会からは「石垣について考えたこともなかったが、この石積みの活動を通して目が変わった」、「道にはみ出して崩れている石垣が危ないので、そういった箇所から直していくことがいいと思う」、「まずは、年一回くらいで石積み活動をして行けたらいいのではないかな」等の感想を得た。

また、石積み箇所の体積と人工を記録することで、これからの石積みを行う範囲に対して、何人が何日で積めるかを考える判断材料になる。

石積みの技術は経験することが大切であり、一度石積み活動を始めたからには、毎年継続しようという現地からの要望がある。石垣は積み直しが可能であることを踏まえると、できることから始め、人びとの関心の発展に伴い活動内容を拡大することは有効であると考え、このプロジェクトを続けることで、現代的な相互扶助の仕組みを構築することに繋がり、内発的方法による文化的伝統的景観継承の可能性があると感じる。

活動写真

